



年 組

なまえ

# わたしたちの赤堤

霞田谷区立赤堤小学校創立100周年記念  
郷土学習副読本





## ① わたしたちの赤堤<sup>あかづみ</sup>

### 1 学校の屋上から

学校の屋上から、わたしたちの町をみわたしてみましょう。

まず、体育館の方に向かって南西の方を見ると、赤堤住宅のむこうに広々と住宅が広がっています。経堂小学校のむこうは希望ヶ丘団地。南よりに世田谷清掃工場のえんとつが見えます。晴れた日には、丹沢の山々をしたがえた富士山を見ることができます。

南の方は経堂駅。駅に近い所に、大きなマン

ションがたちならんでいます。

東は赤堤1丁目。山下駅ふきんのマンション、その左手に善性寺の小高い森も見えます。

北東は、赤堤3丁目と2丁目です。六所神社の森が見えます。東よりのはるかむこうに新宿の高そうビルも見られます。

北には赤堤通りの交差点があり、左手に西福寺の森が見えます。遠くの大きなたてものは、日本大学と附属桜ヶ丘高校です。

どちらを見ても、家、マンション、アパートなど、住宅の多い町です。

## 2 町をまわってみる

地図を見ながら、わたしたちの町をひとまわりしてみましよう。

学校の学級園のわきから緑道に入ります。緑道は、昔の北沢川です。このへんは新井という地名で、田んぼでした。緑道と学校前のバス通りの交差点がやまと橋。今はバス停にしかその名前はありません。そこからまっすぐ世田谷線の山下駅へ向かいます。山下駅のふみきりをこえたら、細い道を左へ入って、また緑道を右へ歩きます。豪徳寺1丁目の商店街のうらてにそって緑道が続きます。この商店街の道は、わたしたちの町の中では古い道の1つで



やまと橋付近



豪徳寺駅前の商店街



北沢川とその支流の合流点だった所



水車池田米店

す。大山街道へ通じる道でした。緑道はやがてもう1本の暗きよといっしょになる三さ路にでます。左手にいく緑道は北沢川の支流だったのです。水車で米をひいていたという池田米店の所を左にいった暗きよからはなれて、善性寺に行きます。石だんをのぼるとお不動さんの大きなお堂があります。お不動さんのうらてから世田谷線を見ますと、このへんは土地が高い所だと気がつくでしょう。電車が坂をのぼってきます。「赤堤」の名のおこりの場所はこのへ





善性寺（お不動さん）



六所神社



西福寺

んです。（11ページ参照）

赤堤通りと世田谷線がまじわるふみきりに出ます。

赤堤通りを通過して、六所神社へ向かいましょう。六所神社を出たら、静かな住

宅街（赤堤3丁目）を通過して、西福寺へ向かいましょう。

このへんは道がまっすぐで、区画整理された町だということがよくわかります。西福寺の門前には区画整理記念碑があります。西福寺を出たら、四谷軒牧場のあったところを通過して学校へもどります。

これで、わたしたちの町を大体ひとまわりしたことになります。

わたしたちの学校の学区は、赤堤1丁目、2丁目、3丁目

と宮坂2丁目の一部です。

そのさかいめは、北沢川とその支流、そして赤堤通りで分けられています。

航空写真や地図を見ながら、歩いたコースをもう1度たしかめてみましょう。



四谷軒牧場あとの記念碑



空から見たわたしたちの町

## 2 赤堤のうつりかわり

## 1. むかしの赤堤 ー大むかしから江戸時代までー



げんざいの北沢川緑道

## (1) 北沢川

学校の西側に緑道があります。むかし、ここは川でした。北沢川といいます。北沢川は上北沢の方から今の豪徳寺駅の近くを流れて、目黒川にそそいでいます。大むかし、このへんはこんもりとした森でさびしい所でした。道も家もありません。キツネやウサギなどがはしりまわっていました。

人は水のあるところに住みはじめました。大むかしの赤堤の人も北沢川のほとりにすみはじめました。発見された石器（石の道具）や土器（土でつくられたかめやつぼ）な



赤土手のあった所



善性寺（お不動さん）

どから、1万年～5千年前には人が住んでいたと考えられています。

## (2) 赤堤村

赤堤という村の名まえは、どのようにしてつけられたのでしょうか。

赤堤小学校の正門からまっすぐ世田谷線に向かっていくと、その道路と世田谷線がまじわるふみきりがあります。ふみきりから見ると、山下駅の方も松原駅の方も下り坂になっており、少し高くなっていることがわかります。ふみきりの先には善性寺（お不動さん）があり、赤堤山ともいいます。むかし、このへんは赤土でできた土手（堤）でした。そこで赤堤という名が付けられたといわれています。そして、この場所には赤堤砦（あかづみとりで）といって、戦いの陣地になる建物があったともされています。





西福寺

赤堤村の名は古い本にも残されています。西福寺は天正12年(1584年)にできたといわれています。お寺に残る古い書き物にはもう赤堤村の名前が書いてあるので、もっと昔から村があったと想像できます。また、江戸時代にできた「新編武蔵風土記稿」(1828年)には、「家が70けんぐらいて人口は300人ほど、水が少なく、水田より畑の方が多かった。」と書かれています。六所神社も西福寺と同じころにできたとされており、村を守る氏神様として祭られています。



六所神社



江戸時代の赤堤絵図

### (3) 江戸時代の赤堤村

むかしは、人に身分のちがいがありました。侍が一番えらくて、農民は侍にしたがわなければなりません。侍は領地(土地と農民)を持ち、たがいに勢力をあらそっていました。豊臣秀吉が小田原城をせめほろぼし、天下をとると、秀吉の家来だった徳川家康が江戸を領地にし、赤堤村は家康の家来の服部氏の領地になりました。天正19年(1590年)ごろから元禄10年(1697年)までのおよそ100年間で、そのあとは天領(幕府の領地)になりました。

侍に支配されている農民は、苦勞して作った農作物の半分を年貢として領主におさめなければなりません。農民は重い年貢に苦しみながらも、一生懸命働きました。

江戸時代のなかごろには、江戸の町は人口100万人もの大都市になりました。世田谷の村々は、江戸の人々が使う炭をつくったり、食べる野菜を作ったりするようになりました。江戸の人口が増えると飲み水が足りなくなり、1656年に玉川上水がつけられました。

1658年には北沢用水が作られました。北沢川を利用して、玉川上水から水を分けて流しました。自然の川だった北沢川は人工の用水路になったのです。

田畑も増え、服部氏の領地だったころは160石といわれた赤堤村の生産高も天領になったころには230石にまで増えました。それでも水不足は深刻な問題で、雨が少ない年は収穫がいつもの年の半以下となってしまう、村の人は



江戸時代の用水路の地図

生活に苦しみました。

六所神社の近くに弁天池というため池をつくり、そこから田んぼの水をひくこともしました。池に祭ってあった弁天様は今でも六所神社の境内にのこっています。何日も雨が降らないと、村の人々は雨ごいの行事をしました。



昔の弁天池



西福寺の竜神

赤堤に住むおじいさんの話

7月8日ごろに雨が降らないときは雨ごいをした。くじで当番を決め、朝2時におきて井の頭弁天に行き、竹筒に水を汲んで六所神社にまいていった。それでも降らないと神奈川の大山まで行き、汲んできた水を西福寺本堂の竜神にかけた。そして祈ると必ず間もなく雨が降るから不思議だ。



## 2. 明治・大正のころ

約400年続いた、侍を中心とした世の中（江戸時代）が終わり、新しい世の中となりました。江戸は東京と呼ばれるようになり、年号を「明治」と改めました。

外国との交流も多くなり、新しい生活のしかたが入ってきました。チョンマゲ姿の侍は髪を切り、刀をさすのをやめました。着物にかわって、洋服を着る人も多くなりました。今まで食べなかった肉を食べるようになり、牛なべ屋（すきやき屋）がはじょうするようになりました。

明治4年、赤堤は東京府荏原郡赤堤村になりました。まわりには松原村、上北沢村、世田谷村、経堂在家村がありました。

表 明治のはじめのころの戸数と人口

村名	戸数(戸)	男(人)	女(人)	計(人)
赤堤村	53	1547	123	277
上北沢村	85	234	253	487
松原村	107	281	249	530
世田谷村	315	792	719	1511
経堂在家村	62	196	158	354

日本の世の中は、明治になって大きく変わりました。しかし、赤堤の土地や人々のくらしは、それほど大きな変わり方はしませんでした。今までと同じような静かな農村で、人々は畑や田んぼで麦や野菜を作っていました。

### (1) 学校のはじまり

明治の世の中になり、新しい国をつくるため、日本の国では教育に力を入れ、学校をつくるきまりを決めました。



明治のはじめのころの小学生

明治4年、西福寺の和尚さんの松岡照山という人が、「寺子屋」を開きました。赤堤村の学校のはじまりです。最初は12人の子どもたちが集まって勉強をしました。筆で漢字やひらがなを書く、習字の学習をしました。

明治20年には、赤堤4丁目にあった火の見やぐらの近くに松沢小学校が開校されました。赤堤・上北沢・松原の3つの村が連合して作った、この土地で、はじめての公立の学校でした。



## (2) 新しい村

明治22年になると、各地で今までの村がいくつかいっしょになったり、分かれたりして新しい村をつくるようになりました。赤堤は、上北沢・松原の3つの村で「松沢村」をつくりました。

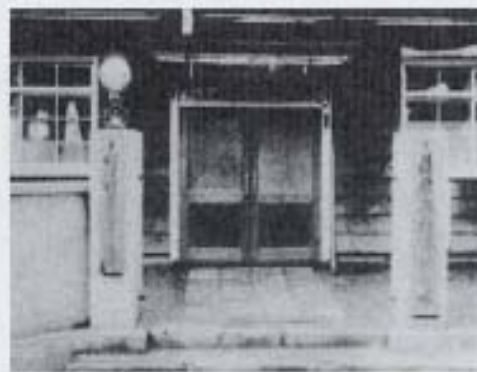
村役場は初めは西福寺に、そして翌明治23年には村の中ほどにある火の見やぐらの所にできました。このころの赤堤村には、家が49軒あり266人の人が住んでいました。

## (3) 農家の人々の暮らし

明治の初めごろ、赤堤に住む人のほとんどが農家をして



昭和57年当時の火の見やぐら



松沢村役場

くらししていました。畑では麦やあわ、大豆などのこく類、大根やごぼう、ねぎ、なす、きゅうりなどの野菜を作っていました。北沢川ぞいには水田がひろがり、米を作っていました。

とれた野菜は、甲州街道を通過して新宿や四谷まで売りにでかけました。帰りには生活に必要な品物を買って帰ったそうです。田や畑で使う道具は、世田谷村のボロ市で買っていました。

食べ物は、自分の家でできた米や麦、野菜を食べていました。しかし、米はあまりとれなかったので、ふだんは麦が多く入ったごはんでした。お盆やお正月などの特別な時に、お米だけの白いごはんを食べました。自分の家でとれた大豆を使ってみそも作っていました。お茶も葉をもんで作っていました。

## (4) ランプから電灯へ

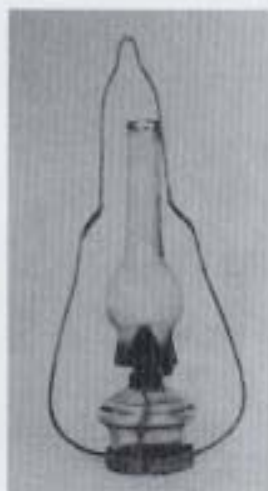
世田谷に電灯がついたのは大正8年でした。赤堤に電灯



農家の人々

がついたのはその4年後でした。当時（今の10万円くらい）かかりました。

それまでは夜はランプをつけていました。ランプは毎日油をつめて、ほや（外側のガラス）についたススを掃除しなければなりません。この掃除は子どもの役目だったそうです。



ランプ

### (5) 関東大震災

大正12年9月1日、午前11時58分、関東地方を中心に大きな地震が occurred。関東大震災です。ちょうどお昼時だったので、火を使っている家が多く、大きな火事になりました。東京、千葉、神奈川に被害はひろがり、9万人の人が亡くなりました。壊れたり焼けたりした家は13万世帯にもなったそうです。

赤堤では大きな被害はありませんでした。みんな田や畑で仕事をしており、火を使っていなかったからです。それでも松沢村全体では4軒の家がこわれ、2人の人が亡くなりました。



東京の被害のようす

やがて都心から700人あまりの人が避難してきました。松沢小学校も避難所として使われました。避難した人中には、この村に住むようになった人もいたそうです。

表 世田谷の町村別被害状況

	こわれた家			死んだ人やけがをした人			
	全	半	計	死亡者	負傷者	行方不明者	計
世田谷町	17	16	33	1		3	4
松沢村	1	3	4	2			2
駒沢村	1	7	8	2	1		3
玉川村	7		7		6		6
砧村	3	3	6				0
千歳村	11	93	104		5		5
計	40	122	162	5	12	3	20

(東京百年史「第4巻」より)





世田谷線 山下駅付近

(6) 京王線・世田谷線の開通

明治の初めのころは、主な交通機関は馬車でした。新宿まで3銭で、6~7人が乗れる程度のものでした。村の人はほとんど利用せず、歩いていったそうです。

明治45年から京王線の工事が始まり、大正2年に笹塚と



六所神社前駅

調布の間が単線で開通しました。開通当時、1日お客さんは800人くらいだったそうです。

世田谷線は、大正14年、玉川線の一部として三軒茶屋と下高井戸間が開通しました。初めのころは今の松原駅の北に「七軒町」という駅があり、その次が「六所神社前」という駅でした。三軒茶屋駅の手前には「西山」という駅もあったそうです。後に七軒町と六所神社前の駅をなくして松原駅をつくりました。料金も今のように全線同じではなく、早朝割引もあったので車掌さんも大変でした。

「みんなさきでこつらん、新しい電車が来るよ」  
 寝台のはうで山原のつぶつぶがする。この村へ三軒電車が延長  
 してきようはその開通の日だった。  
 お花も露なへ出て、三軒のそばへ立って珍しいものを見る  
 ように、次の電車が通るのを待った。  
 やがて、風の立木の間から丘の下の青葉の中も、曇った電  
 車が晴れがましくゆくりと走ってきた。  
 「さき」  
 気がなし三軒も子どもたちにも声を合せて、そう叫びたい  
 気分だった。  
 (自伝集「山原」より)



竹久夢二 文とスケッチ

### 3. 昭和のころ

#### (1) 小田急線の開通

世田谷線が開通した大正14年ごろから、小田急線の工事もはじめられていました。昭和2年4月から新宿～小田原間が開通しました。昭和3年3月には相模大野～江ノ島間が開通し、現在のようにになりました。



経堂駅（昭和のはじめごろ）

関東大震災や電車の開通により、大正の終わりから昭和のはじめにかけて松沢村の人口は急にふえ

表 小田急線一日の平均乗降客数

年度	経堂	乗徳寺	新宿
2	1,326人	2,003人	21,485人
5	2,834	3,024	30,543
10	4,782	3,419	31,780
15	9,760	5,131	53,358
21	16,748	10,093	75,403

(小田急50年史より)

てきました。畑や荒地がだんだん住宅になってきました。農業の人ばかりでなく、お勤めの人も多くすむようになりました。

#### (2) 新しい町、世田谷区赤堤

昭和7年、東京市は、まわりの5つの郡と82の町や村も加わり、35の区になりました。この時、世田谷町・駒沢町・松沢村・玉川村を合わせて、東京市世田谷区ができました。

このときから、世田谷区赤堤町となりました。そして赤堤は、1丁目と2丁目に分けられました。

東京市の誕生をお祝いして、小学校の子どもたちは旗行列をしたそうです。



今の赤堤1丁目20番付近



### (3) 区画整理

昭和になってから、各地で土地の整理がはじめられました。田畑の区画をはっきりさせて農業をやりやすくしたり、道路をつくったりするのです。

赤堤では昭和7年から「宮前第一土地整理組合」を作つて、世田谷線の東側16万平方メートルを整理しました。昭和12年には「宮前第二土地整理組合」ができ、こんどは世田谷線の西側50万平方メートルの整理が行われました。

まず台地の土をけずり、低いところを埋め立てます。赤堤小学校がある新井田んぼは埋め立てられて畑になりました。赤堤小学校の前の道を土や砂利をのせたトロッコが走っていました。この道が今の赤堤通りです。

この工事は昭和36年までかけて行われました。



西福寺にある区画整理の記念碑

### (4) 戦争がはじまる

昭和18年12月8日、日本は世界の国々を相手に戦争をはじめました。日本の各地に軍隊の施設ができ、兵器を作る工場も多くなりました。

世田谷区でも国を守るための軍隊の施設がだんだん多くなりました。近所の人々の隣組をつくっていろいろ助け合いました。国の様子を知らせあったり、防空演習といって被害を防ぐ訓練も隣組でしました。

大学生の中には兵士となって戦争に参加する人もいました。中学生は、男も女も戦争のための工場で働きました。小学生は防空ずきんといって今の防災ずきんのようなものを持って登校するようになりました。

東京にもアメリカの飛行機B29がとんでくるようになりました。子どもたちを安全な所で生活させようとして学童疎開をはじめました。昭和19年、松沢小学校の子どもたちも新潟県に疎開をしました。

世田谷区にはじめての空襲があったのは昭和19年11月28日でした。

空襲もはげしくなり、松原小学校など6校の小学校がやめました。赤堤でも爆弾が落ちて、やかれた家もあります。

昭和25年5月末頃、世田谷区が特に被害をうけました。このときは、区内でも90人ほどが亡くなり、たくさんの方がやられました。

船橋にはてきの飛行機をおとす高射砲がありました。ここでうったたまがB29にあたりました。そして、赤堤3丁目の畑に落ちました。飛行機にのっていた人のうち2人が助かり、パラシュートで経堂の方へ降りたそうです。飛行機から流れ出した油は土にしみこみ、近所ではしばらく井戸水が使えなくなりました。

#### (5) 戦争がおわって

昭和20年8月15日、戦争は終わりました。戦争によって人々は住む家がやかれ、食べ物も不足する苦しい生活がはじまりました。食べ物や着るものも自由には買えませんで



空をとぶB29



庭につくられた防空ごう

した。役所からわりあてられる配給でくらしていましたが、これだけではたりませんでした。東京の人々は、いなかへ食べ物を買出しに出かけていきました。お米がたりないので、おいもや「ぞうすい」をたべてすごしました。昭和20年10月、お米一升の配給のねだんは53銭でしたが、特別に買うヤミ市では70円（約130倍）もしたそうです。経堂・下高井戸には、いろいろなものを売るヤミ市がありました。

いろいろ不自由はありましたが、戦争が終わったことで大人も子どももだんだん明るさをとりもどしてきました。

昭和30年ごろから、日本の国は工業がたいへん発展し、働く人々が都会に集中するようになりました。東京に集まった人々は都心のまわりに住宅を持つようになりました。こうして世田谷区をはじめとするまわりの区・市や県の人口が急にふえまじめました。大部分が森と畑だった赤堤は住宅がたちならぶようになりました。昭和のはじめのころから比べると、終わりのころの人口はおよそ9倍にもなりました。



## 4. 今の赤堤

### (1) ふえるマンションやアパート

わたしたちの赤堤は、おちついた住宅地です。きちんと区画整理され、広い庭に樹木の植えられた家がならんでいます。また都心に近くて、会社が多く、通勤に便利な土地ですから、会社の社宅がたてられたり、マンションがたてられたりして、よその土地から引っこしてくる人が多くなりました。そして仕事の関係で引っこしていく人も多いのです。古くからすんでいる人の中には、農業をやめて、アパートを経営している人もいます。赤堤小学校でも、マンションや会社の社宅から通っている友だちがたくさん



工事中の経堂駅

います。

たくさんの方が利用するので、小田急線も変わりました。平成12年には今までの線路が高架にかわり、経堂駅横の踏み切りがなくなりました。線路の本数もふえ、よりたくさんの方が通れるようになりました。

東急世田谷線も平成12年にはステップをなくした新しい車両にかわりました。駅のホームは階段をなくし、少しだけ高くして、車両とホームとのあいだの段差をなくしました。

道路も整備され、赤堤通りも少しだけ広くなりました。

### (2) 北沢川のうつりかわり

昭和26年に赤堤1丁目に引っこしてきたある人が、地域



現在の経堂駅



昭和34年ごろの北沢川



昭和40年ごろの北沢川

の人たちの文集に次のように書いています。

『私どもがこの地にひっこしてきたころは、遊歩道は北沢用水で、兩岸にあしがしげり、秋ともなれば、すすきのほがゆれ、赤とんぼがすいすいととびかうのどかな場所でした。お天気の日子どもたちのにぎやかな笑い声が聞こえたものです。川の中に子どもたちが4・5人ざりがにとりをしていました。……』

北沢川は、子どもたちの楽しい遊び場でした。赤堤1丁目の13・14番地あたりには、大きな沼があって、つり堀になっていました。赤堤小学校ができたころは、ボールがころがって北沢川にポチャンと落ちることもあったそうです。

しかし、北沢川はよい話ばかりではありません。台風がくると、大水で川があふれ、豪徳寺1丁目の山下駅のあたりの家々はゆか上まで水があがってしまいました。赤堤2丁目1番地にあった水車屋のおじいさんは、  
「台風のときは、心ばいだった。どろ水が一気に家の中に入ってきて、たたみや家具が水びたしになってしまったこともある。今でもどろ水のあとが柱についている。今では、緑道になったので、大雨がふっても、まくらを高くしてねられる。」

と、話しています。

やがて北沢川ぞいに家やアパートがたちはじめ、家々から出るよごれた水は、北沢川に流されました。家がふえるにしたがって、くさいにおいが出はじめ、すっかりどぶ川にかわってしまいました。子どもがそのどぶ川に落ちることもありました。

赤堤の田畑をうるおし続けてきた北沢川も、とうとう人々にきらわれる川になってしまいました。住民のねがいもあって、世田谷区役所では、川底をほり下げて、大きな土管をうめ、その上を緑道にすることにしました。工事は昭和53年に完成し、北沢川は、地下の下水道と緑道にうま



れかわりました。大昔から赤堤の歴史とともにあった北沢川の流れは、こうしてすがたをけしてしまったのです。

山下公園の前のユリの木通り沿いの緑道はユリの木公園として生まれかわりました。ユリの木公園は昭和59年にせたがや百景の1つに選ばれ、昭和61年には第2回せたがや界限賞を受賞しました。そして今でもいこいの場として親しまれたり、テレビドラマの撮影に使われたりしています。ふだん、近くの人々がジョギングをしたり、うば車をおしてくるお母さんたちが、小さな子どもを遊ばせたりしています。

赤堤2丁目と豪徳寺1丁目のさかいめを流れる北沢川の支流も、どぶ川でしたが、昭和57年9月から地下の下水道と緑道にする工事が行われました。



暗渠にする工事中



現在の北沢川

### (3) あかるき まきば -三井牧場・四谷軒牧場-

校歌の3番に「あかるき まきば あさみどり」と、うたわれているのは三井牧場や四谷軒牧場のことです。東京都内にも牧場があったのです。三井牧場は今の桜上水にありました。大正7年から昭和37年まで続いた牧場です。そして赤堤小学校から赤堤通りをわたった赤堤3丁目31番地には四谷軒牧場の牛舎がありました。牧場まで牛の絵をかきに行くこともあったそうです。

四谷軒牧場はもともと四谷麴町にあった牧場ですが、昭和5年に赤堤にひっこしてきました。それから55年の間、しんせんな牛乳を作っていました。多



牛魂碑

いときには120頭もの乳牛を飼っており、自然を求めるといふ人たちのいこいの場として親しまれてきました。しかし、赤堤の町もどんと都市化していき、昭和60年1月ついに牧場はなくなりました。

今でも牧場があった場所には「牛魂碑（牧場のきねん



デイホーム 赤堤

ひ)」が残されています。

#### (4) 住みよい町にする努力

住宅地となったこの赤堤の町を、より健康で文化的な生活ができるようにしたいというのが、わたしたちの願いです。

しかし、わたしたちの身の回りには住みよい環境をまもるために、考えなければならない問題がたくさんあります。ゴミ処理の問題もそのひとつです。清掃車が集めたゴミは、清掃工場でもやして処理しています。ところが処理したゴミを捨てる場所がなくなってきて、大きな問題になっています。今、会社や学校はゴミをすてるのにお金がかかります。わたしたちがゴミをすてるのにお金がかかるようになるのも先のことでないかもしれません。



小田急線エレベーター



世田谷線 スロープ

お年寄りや体の不自由な人が安心してくらせるような努力も続けられています。平成8年には赤堤1丁目に「デイ・ホーム赤堤」が作られました。今では1日に何十人ものお年寄りが利用しています。小田急線の経堂駅や東急世田谷線の駅もバリアフリーにむけて、スロープやエレベーターを作るなど、改装工事がおこなわれました。

わたしたちの町を住みよい町にするために、住んでいる人ひとりひとりが努力をし協力していかなければなりません。





### 3 赤堤 小学校のうつりかわり

わたしたちの赤堤 小学校は、今年、平成14年（2002年）で創立50周年をむかえます。この50年の間に、どんなことがあったのでしょうか。大きなできごとがあった年をめやすにして、そのうつりかわりを調べてみましょう。

#### 1. 赤堤 小学校ができたころ ～創立から10周年～

##### (1) 学校ができるまで

赤堤 小学校は、昭和28年（1953年）4月に生まれました。

赤堤 小学校ができるまでは、北沢川を境にして、川の北側に住んでいる人は松沢 小学校か松原 小学校、川の南側に住んでいる人は世田谷 小学校へ通っていました。しかし、



校舎と北沢川

住む人がだんだん増えるにつれて、子どもの数も増え、どの学校でも午前組と午後組に分けて、二部授業をするようになりました。

そこで、昭和27年

（1952年）、3つの小学校の校長先生とPTA会長さんが相談し、世田谷区の区長さんと区議会の議長さんに、新しい学校をつくってくれるように願い出ました。この願いは、翌年、区議会で認められ、赤堤 小学校がつくられることになったのです。世田谷区内では40番目の学校になります。

さて、赤堤 小学校の校庭は、区内でも広い方ですが、この広い土地を子どもたちのために提供して下さった方がいます。古くから伝えられた土地も、「子どもたちのためになるなら」と、喜んでゆずって下さったのです。やがて、この方々は赤堤 小学校協賛会をつくり、学校のために力を貸して下さいました。



創立当時の正門と校舎

## (2) 学校のはじまり

昭和28年(1953年)4月6日、赤堤小の初めての始業式と入学式の日です。けれども、まだ校舎がありませんでしたから、午前中は松沢小学校を借り、午後は世田谷小学校を借りて、それぞれ始業式と入学式を行いました。この年に入学した1年生は105人、全校児童454人(ただし1~5年生まで)、そして先生14人でした。

新しい学校の新しい校舎は、1学期が終わろうとする7月16日に完成し、子どもたちは17日に自分たちの教室に入りました。この時の喜びは、言葉に表せないほどのものだったといいます。子どもたちは、新しい教室を大切につかい、床は顔がうつるくらいにピカピカにみがいたということです。

また、校庭は、昔は「新井田んぼ」だったところを畑に直し、ネギやサトイモを作っていた時のままでしたから、波のようにでこぼこしていました。これでは、まっすぐ走るところか、遊ぶことさえむずかしいくらいでした。当時の先生と子どもたち(特に一番大きな5年生)は、自分たちの手で校庭を平らにしようと、仕事を始めました。それを見たお父さんやお母さんたちは、いっしょに仕事を手伝

ってくれました。とくに9月から10月にかけては、200人もの方が協力してくれました。そして、10月には、平らになった校庭でりっぱな運動会をすることができました。この運動会には、地域の人も花笠音頭で出演するなど、学校ができたお祝いをかねて、みんなで喜び合いました。

## (3) できあがった校章・校歌

今、みなさんの体育着についている赤堤小学校の校章は、校舎ができたころに作られました。さくらの花びらの間につぼみが5つあり、花のまん中に赤堤という文字があります。花びらは親と先生、つぼみは児童を表し、三者が一体となって赤堤小学校を発展させようという願いがこめられているのです。

また、校歌は、学校ができた1年後の昭和29年(1954年)にできました。新しくできた校歌を、子どもたちはいっぺんで好きになり、いつでも、どこでも口ずさんだということです。これらはみんな、PTAと赤堤小学校協賛会の



校章



校旗





昭和29年(1954年)にできた校歌

方々の協力に負うところが大きかったです。

#### (4) プールができたころ

赤堤小学校のプールは、昭和35年(1960年)7月1日にできあがりました。

学校ができて5年目ごろ、プールがほしいという声が高まってきました。当時の学校でも、体育に水泳指導はあったのですが、プールの無い学校の方が多く、夏休みを利用して伊豆の下田とか千葉の岩井などに出かけていました。しかし、参加するのは希望者だけという形でしたから、泳げる子はあまりいませんでした。

そこで、PTAでは、さっそくプール建設準備委員会を

つくり、仕事を始めました。プールをつくるには440万円かかることがわかりました。そして、プール建設臨時会費というお金を出し合い、約2年間にわたって、その費用の半分ほどを集めたのでした。

赤堤小の大きなプールは、当時としては本当にめずらしいもので、松沢小学校の子どもも、松沢中学校の生徒も、時にはボーイスカウトの人たちも、よく借りに来たほどでした。また、指導の合間には、保護者の方々や卒業生が入る時間もありました。地域の人々の協力のおかげで、赤堤小学校の子どもたちは、他の小学校の子どもたちよりはやく多く泳ぐことができたのでした。



プール開きに集まる  
お母さんたち  
～昭和35年(1960年)～



記念の演奏をする子供たち

## 2. 体育館ができたころ ~創立11周年から20周年~

### (1) 体育館ができる

体育館ができたのは、プールができてから5年後の、昭和40年(1965年)のことでした。

5回目までの卒業式は、なんとか教室を使用して行ってきたのですが、児童数も増えたために、それ以後は校庭で行うようになりました。しかし、3月のことですから、まだ寒い日もあり、また雨や雪が降ったらできなくなるという不都合がありました。

また、学芸会についても、自分の学校



校庭で行われた卒業式

では行うことができず、松沢小学校や松沢中学校の講堂を借りて行っていました。

新しくできた体育館で初めて卒業式を行ったのは、第11回目の卒業生でした。また、学芸会も昭和42年(1967年)になって初めて自分の学校で開くことができるようになったのです。

### (2) カナダの大使夫妻来校

この鉄筋校舎の工事中の昭和41年(1966年)、赤堤小学校にカナダ駐日大使リチャード・パワー夫妻が来校し、カナダの国の木とされているカエデを植樹されました。また、みんなの授業を見学し、給食も食べていけました。これは、5年前にカナダのウイニペグ市と世田谷区が姉妹都市として協力し合っていくことになった記念として、赤堤小学校など区内の八つの学校が姉妹校となっていたためです。



パワー大使夫妻の植樹を伝える新聞記事 ~昭和41年(1966年)2月1日~

### (3) 初めての鉄筋校舎

体育館ができた翌年の昭和41年(1966年)5月、今の校長室・事務室・第二昇降口を含む3階建ての鉄筋コンクリ



一トの校舎が完成しました。今までの北側の校舎の西側半

分の建物を南側に移

し、その後建てた

ものです。そして、

昭和43年(1968年)

3月には、三角部屋

に続いて3教室分の

校舎が完成しまし

た。

こうして、昭和44年(1969年)の校舎は、下の写真のよう



昭和44年(1969年)の校舎全景 ~校舎が2列になっています~



初めてできた鉄筋校舎  
(手前は旧校舎の放送室)

#### (4) 築山ができる

今、「親子山」と呼ばれている山は、昭和46年(1971年)に「築山」として生まれました。でも、トンネルやすべり台は、まだありませんでした。「親子山」という名前は、昭和50年(1975年)、児童会が全校児童から募集し、つけられたものです。

赤堤小学校の校庭は、もともと田んぼでしたから、少しの雨でも水がたまり、ぬかるみになってしまいました。ですから、機会があるごとに土を入れ、校庭の整地をやってきたのですが、ある時、盛り上げられた土をそのまま山として残したらどうか、ということになったのでした。赤堤小学校の校庭整地の仕事は、昭和53年(1978年)の校庭改修まで約26年間続いたことになります。この山は、校庭整地の歴史を示す記念碑でしたが、今では、新体育館工事に伴い、新しい親子山に作りかえられました。



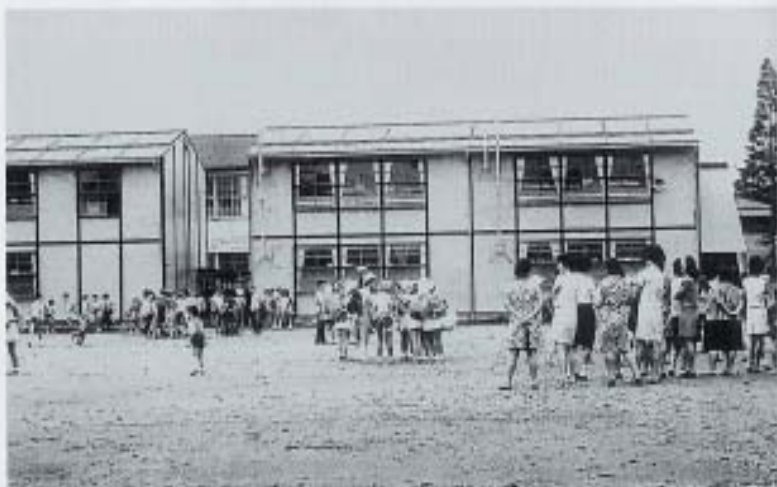
むかしの親子山

### 3. 新校舎ができたころ ~創立21周年から30周年~

#### (1) 新しい校舎ができる

今、職員室などがある4階建ての校舎は、昭和49年(1974年)3月にできあがりました。続いて、昭和50年(1975年)3月には、今の図工室・家庭科室・理科室などのある校舎ができ、今の校舎の並び方になりました。

4階建ての校舎をつくる時は、校庭にあった木を親子山の方に移し、プレハブ校舎をつくったため、さすがに校庭はせまくなり、運動会にお家の人を呼ぶこともできないほどでした。また、給食室もなくなったので、校舎ができあがるまで、子どもたちはお弁当を持ってきました。



新校舎建築の時のプレハブ校舎

#### (2) 教育研究の発表

新校舎ができた翌年の昭和51年(1976年)11月、道徳教育研究発表会を開きました。これまでも何回か研究発表会を開いてきたのですが、この研究は文部省の協同推進校および世田谷区の研究奨励校として、松沢中学校といっしょに研究を進めました。研究テーマは「ひとりひとりの道徳的心情や実践意欲を高める道徳教育の推進」というむずかしいものですが、道徳教育を進めていく上で大きな提案をしました。

#### (3) 愛鳥モデル校

昭和55年(1980年)4月、愛鳥モデル校として都知事から指定証をいただき、野鳥の保護と自然を守る活動が始められました。巣箱作り、愛鳥ポスター作り、それに探鳥会などの活動が進められました。今後、赤堤小学校だけでなく、地域そのものの環境をさらによいものにして、野鳥たちがもっともっと安心してくらせるようにしたいものです。



愛鳥モデル校の指定を受ける



#### 4. 新体育館のできたころ ~創立31周年から40周年~

##### (1) 教育研究の発表

赤堤小学校では、昭和62年(1987年)、昭和63年(1988年)の2年間、世田谷区研究奨励校を受け、「望ましい集団活動を通し進んで実践する児童の育成」を研究主題に、研究を進めました。この研究を通し、一人ひとりの子どもたちが、学級会活動が好きになり、相手のことを考えた発言ができるようになりました。そして、平成元年2月に、研究の成果を発表しました。

##### (2) 新しい体育館、給食室ができる

昭和40年(1965年)にできた体育館も、長い間の使用で、床のいたみがひどくなってきました。また、プール、給食室も古くなってきたため、昭和63年(1988年)1月から体育館、プールの新築工事が始まりました。工事期間中は、屋上を使って体育の授業をしたり、夏休みの水泳指導も世田谷小学校のプールを借りて行いました。

また、給食室の工事期間中は、みんな弁当を持ってきました。いろいろ苦労しましたが、平成元年(1989年)3月には新しい体育館と給食室が完成し、6月には完成を祝って37周年の記念式典も行われました。新しい体育館は、

プールが体育館の上にある重層式の体育館で、とても立派です。

##### (3) 校庭の整備と新しい親子山ができる

体育館、給食室の新築工事とともに、校庭の改修、整備も行われました。今の校庭の半分の広さになった校庭で、運動会も行われました。せまい校庭で遊ぶのは大変でしたが、みんな工夫して遊んでいました。子どもたちの大好きな親子山も、工事でとりこわされました。しかし、どうしても親子山を作ってほしいという子どもたちの願いを聞いて、新しい親子山が作られました。少し小さくなりましたが、赤堤小のシンボルともいえる親子山は、いつまでも子どもたちの大好きな遊び場です。



新体育館の完成 ~新しい親子山はまだありません~

## 5. 「たてわり活動」が始まったころ

～創立41周年から50周年～

### (1) 教育研究の発表

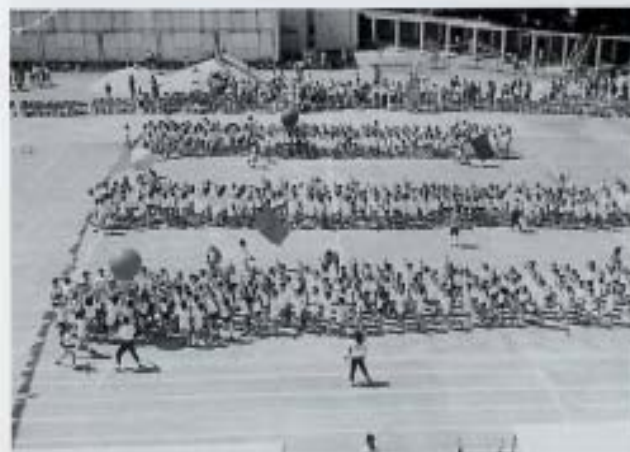
平成9年（1997年）2月、赤堤小学校は世田谷区研究課題校（学年・学級経営）として、研究発表を行いました。「人と人が関わり合うことのすばらしさに気づく子ども」をテーマに、関わり合いを深める活動が工夫されてきました。



とくに、異学年の子どもたちが交流する「たてわり活動」や「たてわり遠足」「3色対抗運動会」などは、この時から始まり、赤堤小学校の大きな特色の一つとして、今に引き継がれています。



たてわりお弁当給食（平成14年）



3色対抗運動会 大王送り



## (2) 生涯学習センターができる

平成4年（1992年）の赤堤小学校40周年記念事業の一つとして「赤堤生涯学習センター」が設置されました。

幼い時から美しく老いるまで、よいふれあい

よい学び よい活動との出会いに恵まれ、

よい環境の中で 心豊かに生きる街、

ふれあい結びあう 学習社会づくり

をめざして、地域の文化やスポーツなどのサークル活動の支援や、独自のイベントの企画運営を行っています。



ふれあいサンデーでの「抽選会」

なかでも「ふれあいサンデー」は、地域の文化祭とも言うべき催しで、みんな楽しんで参加しています。参加者も例年2000人を越え、盛大に開催されています。

## (3) ボランティア活動への取り組み

平成9～11年（1997～1999年）までの3年間、赤堤小学校は「ボランティア教育協力校」としてさまざまな活動に取り組んできました。

「デイホーム赤堤」のお年寄りとの交流や、地域の花植え、落ち葉掃き、一人暮らしのお年寄りへの慰問はがき書



地域花植え（平成14年）

きなどを通して、豊かな心や実践力が育ってきています。

そして、現在も、これらの活動は継続して行われています。

#### (4) パソコンルームができる

平成7年（1995年）に新設されたパソコンルームは、最初8台のパソコンでスタートしました。さらに、平成13年（2001年）には、最新のパソコン20台を備えた新しいパソコンルームとして生まれ変わりました。

これにより、2人で1台は使えるようになり、今まで以上にパソコンに慣れ親しむことができるようになりました。とくに、総合的な学習の時間やクラブ活動などで、大いに活用されています。

### 6. これからの赤堤小学校

赤堤小学校が創立されてから、現在までの50年間を振り返ってみると、学校のために、子どもたちも先生方もそしてお父さんお母さん方、地域の方々も、それぞれの立場でたいへんな努力を注いできたことがよくわかります。木造のそまつな教室をみがきあげ、畑だった校庭を平らにし、雑草をぬく。校章や校歌や校旗をつくる。プールをつくる。進んでよい環境をつくり、立派な人間を育てる学校にしよ

うとがんばってきたのです。

これから先、わたしたちも、これまで赤堤小学校を大切にし育ててくれた地域の人々や先輩の努力をしっかりと受けとめ、さらによりよい赤堤小学校をつくっていくためにがんばっていきましょう。



今の赤堤小学校（平成14年）



あかづみしょうがっこう  
赤堤小学校のあゆみ

りやくねんびょう  
(略年表)

ねんがっぴ 年月日	あかづみしょうがっこう 赤堤小学校	よなか 世の中のできごと																																				
27・2	松沢小・松原小・世田谷小の各校長先生とPTA会長の名で、赤堤小学校新設の願いを区長・区議会議長に出す。	27・4 NHKラジオドラマ「若の名は」放送開始																																				
28・3	赤堤小新設の許しが出される。	27・4 対日講和条約																																				
4	松沢小・世田谷小の校舎の一部をかりて授業を始める。	28・2 NHKテレビ放送開始																																				
	<table border="1"> <tr> <td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>計</td> </tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td></td> </tr> <tr> <td>46</td><td>46</td><td>23</td><td>50</td><td>10</td><td>53</td><td>33</td><td>75</td><td>31</td><td>61</td><td>26</td><td>454</td> </tr> </table>	1	1	1	2	2	3	3	4	4	5	5	計	1	2	3	1	2	1	2	1	2	1	2		46	46	23	50	10	53	33	75	31	61	26	454	
1	1	1	2	2	3	3	4	4	5	5	計																											
1	2	3	1	2	1	2	1	2	1	2																												
46	46	23	50	10	53	33	75	31	61	26	454																											
	(このときは、松沢小と世田谷小に分かれていたので、クラスの人数もまちまちでした。)																																					
28・7	校章ができる																																					
8	校庭の整地を始める。																																					
9	校庭の整地と植樹																																					
10	(ゆりの木など)																																					
10	開校祝賀秋季第1回運動会開く。																																					
11	赤堤小学校協賛会発起人会開く。																																					
12	鉄棒ができる																																					
29・3	校庭整地用の土搬入 4月5日まで3百坪分	29・3 第五福竜丸ビキニ環礁で被爆する。																																				
3	増築4教室できる。																																					
7	赤堤小学校校歌できる。																																					

10	第2回秋季大運動会。	29・9 青函連絡船洞爺丸転ぶく。1155名死亡。
3	増築2教室できる。	
3	第1回卒業式 卒業生93名	
12	時鐘取り付ける	
		30・6 1円アルミ貨発行
		30・10 新潟市大火
		10 国勢調査、日本の人口8900万人 都の人口803万人 区の人口51万人
31・4	北側万年堀60間分できる	31・7 「もはや戦後ではない」はやる
4	さわら30本植樹	
6	砂場できる	
9	東側万年堀できる (57・3・31まで)	31・10 佐久間ダム完成
9	児童会代表 浴風園(養老施設)慰問	
31・11	開校記念日とする。第1期校舎が落成し、入校式を行った7月17日を記念し、他の行事や気候等を考慮して11月とした。	31・11 南極観測の宗谷出航
32・7	岩井臨海学園5・6年	32・10 ソ連の人工衛星スプートニク打上げ成功
7	箱根林間学園5年	
7	京王 川の家4年	12 百円硬貨発行
8	日光林間学園6年	
8	増築4教室できる	
9	万年堀北西すみ18間分できる。	
11	創立5周年記念式・祝賀会	
33・3	学芸会(松沢小講堂を借りて)	33・5 アジア大会開く
9	社会科学研究発表会(世田谷区研究協力)	

- 校)
- 34・12 2教室・昇降口できる
- 35・2 学芸会 (松沢中学校講堂を借りて)
- 3 プール工事はじまる。
- 7 水泳プールできる。プール閉き
- 36・5 北沢用水の護岸工事はじまる
- 6 カナダ、ウイニペグ市の学校と姉妹校となる。
- 7 下田臨海学園5・6年希望者
- 7 河口湖林間学園4年希望者
- 8 日光林間学園6年全員
- 36・10 カナダ首相歓迎会5・6年代表出席
- 37・2 万年塚完成→57・3・2まで
- 2 ジャングルジムできる。
- 38・2 体育研究発表会
- 10 放送室できる。
- 39・3 学芸会 (松沢中学校講堂)
- 8 体育館工事はじまる。

- 12 一万円札発行
- 12 東京タワー完成
- 34・9 伊勢湾台風  
このころ岩戸  
景気
- 35・2 東京の電話局  
番が、三ケタ  
になる。
- 8 ローマオリン  
ピック
- 12 刃物を持たな  
い運動
- 37・2 東京の人口  
千万人をこえ  
る。
- 37・5 水不足
- 37・11 テレビ宇宙中  
継成功 (日  
本-アメリカ)
- 39・6 新潟地震
- 39・10 東海道新幹線

- 40・1 理科研究協力校発表会
- 40・2 体育館できる。
- 7 引屋工事はじまる 9・20まで。
- 41・1 カナダ駐日大使リチャード・パワー夫  
妻来校し、楓一本記念植樹する。
- 5 鉄筋3階建て4教室できる
- 8 校庭舗装工事
- 43・3 鉄筋3階3教室できる
- 7 プール浄化槽できる
- 10 明治百年記念植樹「山もも」一本
- 43・12
- 44・5 藤園できる。
- 45・2 フランス児童画展ひらく。

- 開通
- 10 東京オリンピ  
ック開く。
- 40・10 朝永振一郎ノ  
ーベル物理学  
賞を受ける。
- 40・4 住居表示がか  
わり、赤堤小  
は、赤堤1の  
41の24とな  
る。
- 42・10 吉田元首相死  
去  
このころ環七  
で排気ガス問  
題発生
- 43・5 十勝沖地震
- 10 メキシコオリ  
ンピック
- 43・10 川端康成ノ  
ーベル文学賞受  
賞
- 44・7 アポロ11号月  
面に着陸
- 45・3 日本万国博覧  
会ひらく。
- 7 杉並区堀の内



- 46・2 くものすネットできる(ロープ式)。  
2 親子山できる。
- 47・1 正門前の信号機できる。北沢警察署長  
以下多数参列  
2 プールのコースが6コースになる。  
47・8 体育館防球ネットできる。
- 48・4 新校舎をつくるために校庭の樹木を親  
子山に移す。プレハブ校舎で授業をは  
じめる。  
48・10 体育館床上げ工事、投的板工事終わる  
3 鉄筋4階建校舎完成(普通教室14・特  
別教室3・管理室3・給食室)  
49・4 新校舎に移動する。

- で光化学スモ  
ッグ発生  
45・10 沖縄をふくめ  
た国勢調査  
46・3 世田谷区健康  
都市を宣言  
46・8 円変動相場制  
になり、ード  
ル=308円と  
なる。  
47・1 横井庄一さ  
ん、グアム島  
で見つかる。  
47・3 奈良県明日香  
村の高松塚古  
墳被飾壁画み  
つかる。  
47・3 山陽新幹線開  
通(新大阪-  
岡山)  
47・5 沖縄復帰する。  
47・9 日中国交回復  
48・10 中東戦争が起  
こり石油ショ  
ックとなる。  
48・12 政府石油危機  
宣言  
49・3 小野田寛郎さ  
んルパン島  
でみつかる。

- 50・3 鉄筋校舎3階建てできる(普通教室  
10・特別教室3)  
6 木造校舎解体工事はじまる。  
11 新校舎落成式(校庭に1117本のつつ  
じをうえる)  
51・1 栽培池ができる。  
3 岩石園できる。  
11 文部省道徳教育研究発表会  
2 バックネット完成  
3 広域避難訓練、馬事公苑まで避難  
11 くものすネット修理(チェーン式)  
52・11 25周年記念式(窪田稔さん<1回生>  
のお話)  
53・5 校庭を舗装し、スプリングラーをつけ  
る。  
53・8 全教室にカラーテレビが入る。  
55・4 愛鳥モデル校指定証授与される。  
56・1 タイヤとびをつくる。  
57・3 東園万年堀を金網フェンスに改修、国  
旗掲揚塔・造形砂場できる。  
10 鉄筋体育倉庫できる。  
57・11 30周年記念式  
58・5 同窓会より竹林をおくられる。  
59・12 親子山ができる。  
63・1 体育館とプールの新築工事が始まる。  
63・8 花だんと池の整備をする。

- 49・9 台風で多摩川  
堤防決壊  
50・4 区長公選制と  
なる。  
53・8 植村直己北極点  
に立つ。  
8 王選手800号  
ホームラン  
55・6 大平首相急死  
56・4 スペースシャト  
ル成功  
57・5 東北新幹線開  
通  
63・3 青函トンネ  
ル・瀬戸大橋  
開通。

## 平成

- 元・2 世田谷区研究奨励校発表会(特別活動)が行なわれる。
- 元・3 新体育館・プールができる。  
給食室ができる。
- 元・6 体育館・給食室落成37周年記念式
- 元・11 37周年記念児童集会
- 2・10 環境庁かすみ網百獣防止キャンペーンに参加する。
- 2・12 全国野性生物保護実績発表大会で文部大臣奨励賞を受賞する。
- 4・12 40周年記念児童集会  
40周年記念式
- 7・2 動物ランドができる。
- 7・6 プール階段・更衣室滑り止め工事が終わる。
- 7・11 中央トイレ改修工事が終わる。
- 8・9 中央校舎内部改修・耐震強化工事が終わる。

## 平成

- 元・1 元号が平成となる。
- 2・10 東西ドイツが統一する。
- 3・12 ソ連が解体する。
- 4・7 バルセロナオリンピック
- 4・9 毛利衛さん、8日間の宇宙飛行
- 6・6 松本サリン事件
- 6・7 向井千秋さん、日本初の女性宇宙飛行士として宇宙へ出発
- 7・3 地下鉄サリン事件
- 8・7 O-157による集団食中毒発

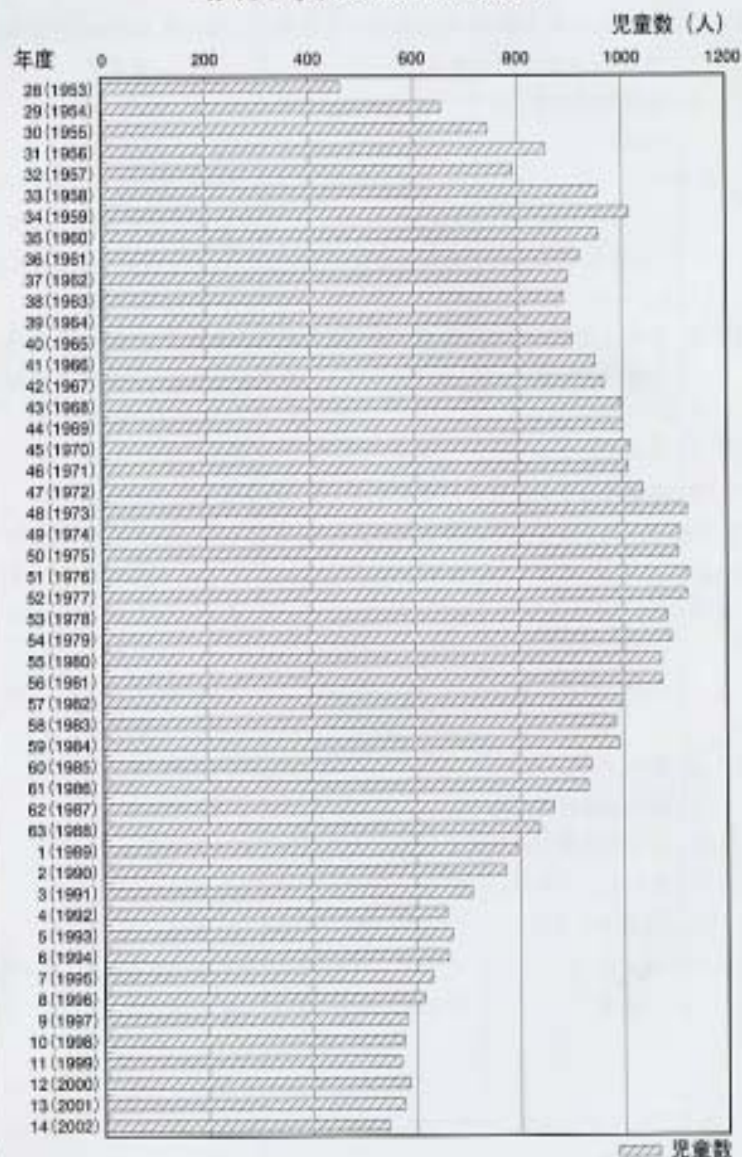
- 9・2 世田谷区研究課題校(学年・学級経営)。発表会が行われる。
- 8 校庭改修工事(グリーンダスト)が終わる。
- 11・9 世田谷区校内研究推進指定校(総合的な学習の時間)となる。
- 12・4 車椅子用スロープができる。
- 9 交通安全警視總監賞を受賞する。
- 13・10 パソコンルームが設置される。
- 14・4 新BOP始まる。
- 4 防犯設備設置される。
- 9 東京都児童文化研究会世田谷大会発表会が行なわれる。
- 11 50周年記念式。

## 生

- 9・5 神戸小学校校舎事件
- 10・6 サッカーワールドカップフランス大会に日本初出場
- 11・9 東海村核燃料工場で国内初の臨界事故
- 12・9 シドニーオリンピック
- 13・6 大阪教育大付属池田小で男が乱入児童8人死亡
- 13・9 アメリカで同時多発テロ。



### 赤堤小学校の児童数の変化



### 赤堤小学校の児童数・卒業生の数の変化

年次	年度	校長	PTA会長	児童数 (人)	卒業生数 (人)
1	28	鶴田良雄	池田孝太郎	454	1076
2	29	-	-	452	1083
3	30	熊谷之貴	岩田岩一郎	739	1060
4	31	-	本間武人	830	1062
5	32	-	-	792	1002
6	33	-	田中明	948	977
7	34	-	狩野俊美	1007	983
8	35	石川芳之助	-	948	929
9	36	-	五百木弘公	911	919
10	37	-	金子雅則	887	832
11	38	-	-	882	828
12	39	磯田重吉	櫻井豊三郎	830	794
13	40	-	-	854	761
14	41	-	三木昇	937	701
15	42	-	-	958	646
16	43	石塚 晴	今村貞吉	996	659
17	44	-	-	1001	649
18	45	-	福田吉太郎	1011	623
19	46	鈴木明彦	-	1007	603
20	47	-	今村貞吉	1035	572
21	48	-	-	1113	563
22	49	小山改造	豊田千ヨ子	1100	557
23	50	-	-	1100	581
24	51	-	升本榮子	1117	572
25	52	-	宮永徳子	1114	533
26	53	深沢昇	藤波あけみ	1076	
27	54	-	福田国子	1083	
28	55	-	-	1060	
29	56	馬場一男	岡村綾子	1062	
30	57	-	江波麗子	1002	
31	58	-	田村栄子	977	
32	59	-	尾谷真保	983	
33	60	今村吉郎	窪田松	929	
34	61	-	三木隆	919	
35	62	-	-	832	
36	63	福永豊良夫	佐藤里子	828	
37	元	-	上田啓子	794	
38	2	-	-	761	
39	3	佐保守敏	磯貝和美	701	
40	4	-	向山敬子	646	
41	5	-	福岡典子	659	
42	6	土屋淳子	亀田博	649	
43	7	-	-	623	
44	8	-	竹内洋子	603	
45	9	-	淵田紀郎	572	
46	10	-	-	563	
47	11	鈴木眞子	塚合博満	557	
48	12	-	小安恵美子	581	
49	13	-	福田千秋	572	
50	14	-	鈴木盛夫子	533	

(参考資料) 赤埴地域年表

年号・年	西暦	赤埴地域のできごと	世田谷区のおもなできごと	日本のおもなできごと
天正12	1584	・西福寺創立 服部頼母増 花岡山 ・六所神社創建 服部貞段 府中六所宮を勧請 西福 寺割当	・頼朝の挙兵に江戸 太郎重長従う (1180) ・一五世紀前半 吉 良氏奥州より世田 谷にうつり住む ・徳川家康江戸城に 入る 世田谷地方 を領地とする (1590)	・頼朝征夷大将 軍となる (1192) ・鎌倉幕府ほろ ぶ (1333) ・室町幕府開く (1336) ・室町幕府ほろ ぶ (1573) ・豊臣天下統一 (1590)
天正20	1592	・赤埴村旗本服部佐兵衛所 領となる 百六十石 (家 康の知行割)	・小泉治太夫六郎用 水を完成 (1609) ・井伊領世田谷にて きる 代官大場氏 (1633) ・玉川上水できる (1634)	・江戸幕府開く (1603) ・綱吉將軍とな る (1680)
万治元	1658	・北沢用水できる	・鳥山上水できる (1659) ・三田用水できる (1664) ・元禄の天領検地 (1695)	・官宗將軍とな る (1716)
元禄10	1697	・赤埴村天領となる (地方 直し) 地頭服部氏 橋本郡に所 替	・元禄の天領検地 (1695)	
正徳元	1711	・西福寺内「金剛密迹両方 士仁王尊」他所から移り	・奥沢村など品川宿 の助郷村となる	

延享 2	1745	・日光門主下向にあたり、 高井戸宿助郷村としての 赤埴村にも臨時の増助郷 を命ぜられる	来る (1725)	
明和 9	1772	・赤埴村内幕新宿の助郷村 に組み入れられる	・松原村など20ヶ村 内幕新宿の助郷村 となる (1772)	・甲州街道に内 幕新宿復活 (1772)
天明 7	1787	・六所神社社殿再建		
文政 7	1824	・幕臣服部伊賀守貞勝歿 (56歳) 西福寺に墓あり	・大早寄 喜多見村 と緒方村の大水平 い	
文政 8	1825	・西福寺庭前に伊賀守増祐 の基礎建立		
文政10	1827	・下北沢村組合に所属 村 高二百三十石、三百二十 五石 中村八太夫支配	・治安強化のため取 締組合村できる	
天保 5	1834	・清水御借場復活 (鷹場) により、粕谷村組合村に 組入れられ使役される		・ペリー来航 (1853) ・安政の大獄 (1859)
文久 3	1863	・品川御殿山反台場構築の ための明依の供出を命ぜ られる ・幕府による砲術の統制は じまる 和泉新田砲術所 に警備人足割当てられる ・江戸出口宿々番所警備強 化のため印札を4枚だけ 与えられる	・井伊直弼桜田門外 で殺される 豪徳 寺にほうむる (1860)	・生夷事件 (1862)
慶応 2	1866	・幕府による農兵育成のた め銃隊稽古に28人徴兵 される		・大政奉還 江 戸幕府ほろぶ (1867)
慶応 4	1868	・官軍人足を命ぜられる (12人)		



明治元	1868	<ul style="list-style-type: none"> <li>軍用金・兵糧米徴発される</li> <li>旧代官は知県事に改められ、武蔵知県事3人のうちのひとり松村長為の管轄区域となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸を東京とし都をうつす (1869)</li> </ul>
明治2	1869	<ul style="list-style-type: none"> <li>古賀一平知県事の管轄区域となる</li> <li>品川県に所属</li> <li>番組制度設置により品川県五番組に属す 代表下北沢村年寄重蔵(後に日村姓)</li> <li>赤堤人口491人 90戸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧井伊領は彦根県・長浜県となる (1869)</li> <li>世田谷 東京と神奈川にわかれる</li> <li>太子堂に郷学所できる (1871)</li> </ul>
明治4	1871	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京府に移管される</li> <li>西福寺松岡照山赤堤村45番地に寺子屋を開く 学科は筆道 生徒12人(男6人・女6人)</li> <li>赤堤村人口514人 108戸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿沼置県 (1871)</li> <li>徴兵令・学制発布・戸籍法実施 (1872)</li> <li>地租改正令 (1873)</li> </ul>
明治6	1873	<ul style="list-style-type: none"> <li>第七大区小六区に属す 戸長月村茂益(下北沢村) 副戸長森岩次郎(太子堂村) 安藤宗太郎(赤堤村)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>荏原学校・八雲学校できる (1873)</li> </ul>
明治7	1874	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤堤村人口277人 53戸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉川学校できる (1874)</li> </ul>
明治10	1877	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤堤村と松原村と合併し 栄江村とする運動あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>村落合併の動き起こる (1877)</li> </ul>
明治11	1878	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京府荏原郡上北沢村(松原・赤堤・上北沢村)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>深沢学校できる (1878)</li> <li>郡区町村編成法施行</li> </ul>

明治20	1887	<ul style="list-style-type: none"> <li>連合村)となる 戸長鈴木左内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>桜学校(世田谷村)できる (1878)</li> </ul>
明治21	1888	<ul style="list-style-type: none"> <li>松原に松沢小学校開校</li> <li>赤堤人口335人 58戸</li> <li>赤堤784に米揚用水車あり(庄田助右エ門所有 年間費二百八十八石 代価22円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1879)</li> </ul>
明治22	1889	<ul style="list-style-type: none"> <li>上北沢・赤堤・松原の三村標準戸数不足であったが世田谷村合併に反対する赤堤村飛地(字栗原・本村)は世田谷村に合併</li> <li>上北沢村・松原村(除飛地松原宿)・世田谷村飛地字羽根木の一部と合併し松沢村となる 村長山室彦三郎</li> <li>松沢村人口1392人 243戸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世田谷村 松沢村 駒沢村 玉川村 千歳村 砧村ができる (1889)</li> <li>憲法発効 市町村制施行 (1889)</li> <li>第一回帝国議会 (1890)</li> <li>日清戦争起こる (1894)</li> <li>日露戦争起こる (1904)</li> </ul>
明治39	1906	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉川電気軌道開業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>騎兵大隊池尻に移転してくる (1891)</li> <li>砲兵部隊三宿に集まりはじめる (1898)</li> <li>玉川線渋谷⇄砧間開通 (1907)</li> <li>府立園芸学校駒沢村にできる (1908)</li> </ul>
明治42	1909	<ul style="list-style-type: none"> <li>松沢村棟数601</li> </ul>	
明治43	1910	<ul style="list-style-type: none"> <li>大水害 松沢村被害特になし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多摩川はんらん区内被害大 (1910)</li> </ul>
明治45	1912	<ul style="list-style-type: none"> <li>松沢村人口2016人 255戸 最小の村落</li> </ul>	
大正2	1913	<ul style="list-style-type: none"> <li>京玉線塚塚⇄調布間開通</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・松沢村棟数512</li> <li>・松原・赤堤・上北沢・山谷各消防組が松沢消防組として一本化する</li> </ul>	
大正 3	1914	・兼鴨病院松沢村に移転 松沢病院と改称	
大正 4	1915	・松沢村に植木屋なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京王線荻塚⇄新宿間開通</li> <li>区内住宅化し植木屋できる (1915)</li> </ul>
大正 6	1917	・促成栽培人として松沢村では池田文右エ門(なす・きゅうり・菜豆)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦起こる (1914)</li> <li>・促成栽培さかんとなる (1917)</li> </ul>
大正 7	1918	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内で初の松沢信用組合できる</li> <li>・豊島師範学校併設豊島補習学校認可される(松沢村松原903)</li> </ul>	
大正 9	1920	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松沢村棟数526</li> <li>・松沢村人口2656 368世帯(内 赤堤340人 57世帯) 農業1430人 工業238人 商業229人 公務・自由業285人 無職424人</li> <li>・松沢村消防組組員数201人 腕用ポンプ4台 組頭浦野富太郎</li> </ul>	
大正10	1921	・松沢村山谷共同出荷組合設立(上北沢)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世田谷警察署独立 世田谷にはじめての署となる</li> </ul>

			(1922)	
大正12	1923	・関東大震災 松沢村被害全壊1 半壊3 死亡2人	・日清線開通 (1923)	・関東大震災 (1923)
大正14	1925	・玉電下高井戸線開通 三軒茶屋⇄世田谷(1月18日) 世田谷⇄下高井戸(5月1日)	・小田急線起工 (1925)	
昭和 2	1927	・小田急線開通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東横線・大井町線開通 (1927)</li> <li>・多摩川のアユ放流はじまる (1927)</li> </ul>	・金融恐慌起こる (1927)
昭和 3	1928	・川口度器製作所設立(赤堤2-542) 従業員34人		
昭和 7	1932	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世田谷区赤堤町1丁目・赤堤町2丁目となる</li> <li>赤堤町1丁目(大字赤堤字梅壇並・宮前・前谷戸・本村・新井・後谷戸、大字松原 字山下)</li> <li>赤堤町2丁目(大字赤堤字中通・原・中丸)</li> <li>・宮前土地整理組合を中心とした赤堤地区区画整理事業開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京市の20区設置 世田谷区発足(10月1日)</li> <li>旧荏原郡世田谷町・松沢村・玉川村・駒沢町 (1932)</li> <li>・世田谷消防署できる (1933)</li> </ul>	・満州事変起こる (1931)
昭和 9	1934	・赤堤町1丁目町会(小田信治) 赤堤町2丁目町会(宮城榮三郎)あり	・北多摩郡千歳村と砧村が世田谷区に編入 (1936)	・日華事変はじまる (1937)
昭和15	1940	・赤堤町1丁目1538人 364世帯 赤堤2丁目3353人 809世帯		



昭和16	1941	・松沢国民学校（松原3-903）と改名 児童数1675人、30学級	・太平洋戦争はじまる（1941）
昭和17	1942	・赤堤1丁目町会（高良篤） 赤堤2丁目町会（須賀文平）あり	
昭和19	1944	・松沢の児童新潟県へ疎開	・世田谷の学童疎開はじまる（1944）
昭和20	1945	・赤堤地域早晚の空襲をうける（5月24日） ・疎開学童帰京 ・赤堤1丁目町会（中村良雄）、赤堤2丁目町会（竹沢卯一）あり	・2回空襲をうける大被害をうける（1945） ・終戦（1945）
			・特別区としての世田谷区生まれる（1947）
			・東京都35区を22区とする（1947）
			・新制中学できる（1947）
			・世田谷区立図書館発足（1950）
昭和26	1951	・赤堤町1丁目人口約2500人 ・同 2丁目人口約5000人	・サンフランシスコ講和会議（1951）
			・世田谷区教育委員会成立（1952）
昭和28	1953	・赤堤小学校開校 松沢小・世田谷小校舎の一部を使用（4月6日～7月16日） 現在地（1丁目291）に校舎落成して移る（7月17日）	
昭和30	1955	・赤堤2丁目自治会発足	
昭和35	1960	・赤堤町1丁目人口約	

		6500人 ・同 2丁目人口約7000人	
昭和36	1961	・電話加入世帯数 1丁目2144（27%）2丁目2545（26%）	
昭和37	1962	・赤堤地区区画整理事業完成	・東京オリンピック（1964）
			・環状七号線開通（1963）
昭和40	1965	・住居表示制実施により2箇所から現在の5箇所になる	
昭和53	1978	・北沢川が地下下水道になり、上が緑道にかわる。	
昭和57	1982		・多摩川にサケの稚魚を放流する（1982）
昭和58	1983	・赤堤区民集会所が開設される	・新一万円札、五千円札、千円札ができる（1984）
昭和59	1984		・世田谷電話局でケーブル火災（1984）
昭和61	1986	・北沢川緑道のユリの木公園が第2回せたがや境界賞を受賞する	・世田谷美術館ができる（1986） ・川場村に区民健康村ができる（1986）
昭和63	1988	・六所の森クラシックコンサートが六所神社で始まる	・次大夫堀公園、区民園できる（1988）
平成元	1989		・青函トンネル、瀬戸大橋開通（1988）
平成2	1990		・北沢タウンホールができる（1990）
平成3	1991		・雲仙普賢岳が噴火する

平成 4	1992	・赤堤生涯学習センターができる	・世田谷区・川場村 縁組協定 (1991)	(1991)	・皇太子の結婚 の儀 (1993)
平成 5	1993	・遊び場フェスタ始まる			・北海道南西沖 地震 (1993)
平成 7	1995	・ふれあいサンデー始まる ・まちなかキャンプ始まる			・阪神大震災 (1995)
平成 8	1996	・デイホーム赤堤ができる	・キャロットタワー 竣工 (1996)	・冬季オリンピ ック長野大会 (1998)	
平成 10	1998	・赤小遊戯所体験始まる	・区ホームページス タート ・FM世田谷開局 (1998) ・新BOP事業開始 (1999) ・小中学校教育ネッ トワーク運用開始 (2000)	・三宅島付近で 火山噴火・地 震発生 (2000) ・サッカーワー ルドカップ日 韓共同開催 (2002)	

## (取材協力・資料提供者一覧)

佐藤敏夫 (地域)	世田谷区郷土資料館	(参考資料)
菟沼謙一 (地域)	世田谷区資料室	赤堤地誌 (佐藤敏夫著)
菟沼茂一 (地域)	小田急電鉄広報課	世田谷区史
菟沼清治 (地域)	東急世田谷線土町駅	世田谷の歴史
須賀能次郎 (地域)	赤堤小学校旧PTA有志	私たちの世田谷
山本兼松 (地域)	赤堤小学校現PTA広報部	世田谷区住民基本台帳
池田樺雄 (地域)	赤堤小学校現保護者有志	学習日本史図鑑
新田久子 (地域)		日本地理図影大系
石川守竹 (地域)		赤堤小学校学校日誌
小山彦太郎 (旧職員)		赤堤小学校卒業アルバム
金子武夫 (旧職員)		「わたしたちの赤堤」
小池七百治 (旧職員)		創立30年、40年記念誌
吉田 稔 (旧職員)		
宮田 稔 (同窓会)		
狩野俊英 (西福寺)		
額羅利男 (六所神社)		

## あ と が き

赤堤小学校の創立50周年をむかえ、郷土学習副読本「わたしたちの赤堤」も改訂することとなりました。

改訂にあたり、10年前に作られた「わたしたちの赤堤」を読み返してみると、赤堤小学校の歴史はもとより、赤堤地域の様子の移り変わりがよくわかり、その延長線上に現在の赤堤小学校の存在があるのだと、改めて強く感じました。

「わたしたちの赤堤」が子どもたちの学習に今後も活用され、赤堤地域をよく知り、愛着を育てる手助けとなれば幸いです。

改訂にともない、ご協力をいただいた地域・PTA・同窓会・旧職員の皆様から感謝申し上げます。

(編集委員)